

1. 過剰歯とは

通常の歯の本数よりも多く形成された歯を過剰歯といい、口の中に生えてくる歯（図1）と、顎の骨の中に埋まっている歯（埋伏過剰歯）（図2）とがあります。過剰歯がよく見られる部位は上あごの真ん中（上顎正中埋伏過剰歯）で、それ以外は前から4-5番目の小臼歯部に現れます。



図1 上あごに出た過剰歯（↑）

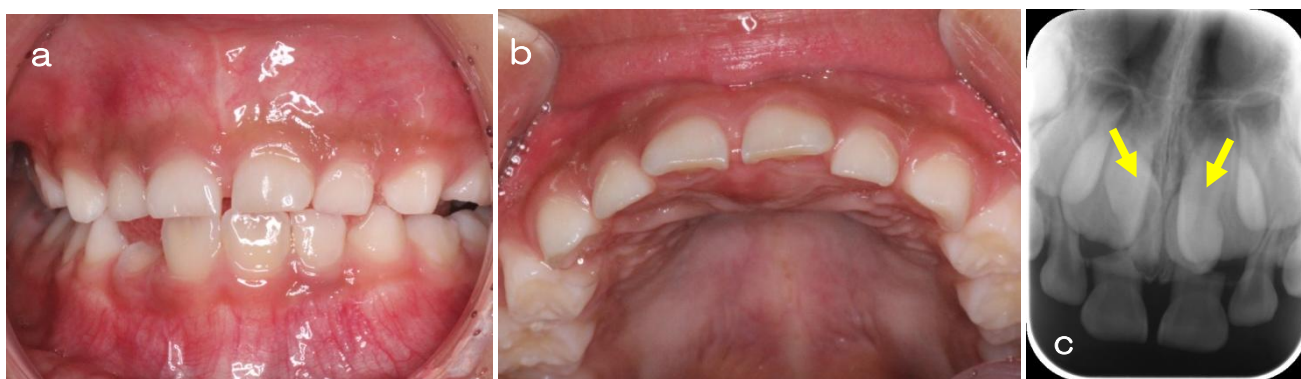


図2 上の前歯に確認された埋伏過剰歯

正面（a）、上あご側（b）ともに過剰歯は確認できませんが、レントゲン写真（c）で埋伏過剰歯が2本（↓）確認できました。

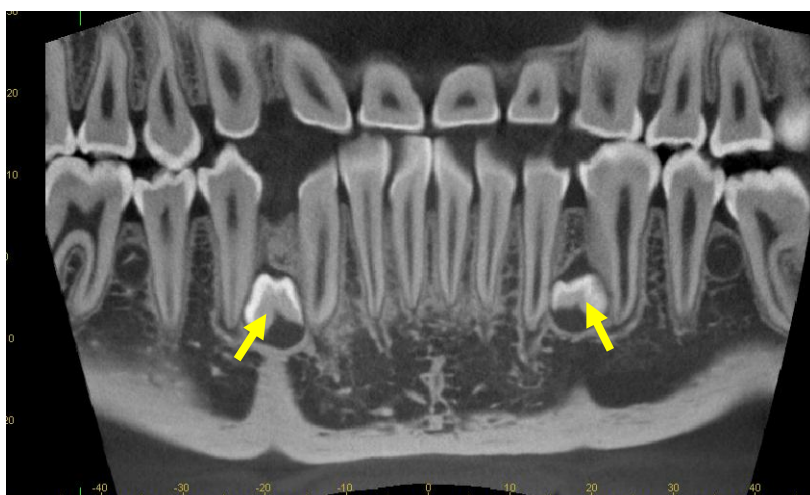


図3 下あごの小臼歯部に確認された埋伏過剰歯（↑）

2. 順生と逆生

過剰歯はその歯の方向により順生と逆生に分類されます。口の中に出てくる方向を向いた場合は順生(図4)、口から遠ざかる方向を向いた場合は逆生(図5)といいます。真横を向いた歯(水平埋伏歯)もあります。



図4 順生の埋伏過剰歯

口の中に歯は見えませんが、レントゲンで右上前歯に重なるように順生の埋伏過剰歯(↓)が確認できました。歯科用CTでは前歯の裏側に口の中に出てくる方向を向いた過剰歯(↓)がよくわかります。



図5 逆生の埋伏過剰歯

口の中に歯は確認できませんが、レントゲンで左上前歯に重なるように逆生の埋伏過剰歯(↑)が確認できました。歯科用CTでは前歯の裏側に口から遠ざかる方向を向いた過剰歯(↑)がよくわかります。

3. 埋伏過剰歯の抜歯時期

順生の埋伏過剰歯は、口の中に出てくることが期待できます（図6）。年齢や埋伏歯の状態によって抜歯する時期を検討します。一方逆生の埋伏過剰歯は、自然に出てくることは期待できません。逆生の埋伏過剰歯が放置された場合、増齢に伴い、鼻側に移動し（図7）、抜歯が困難となるケースもあります。過剰歯が見つかったら、早めに検査をしましょう。

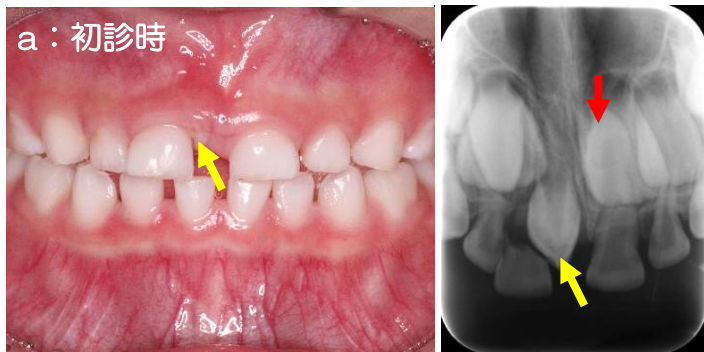


図6 順性過剰歯の変化

a: 5歳2ヶ月の女児。乳歯のぐらつきがあり、レントゲン撮影で過剰歯が2本見つかりました。上あごの真ん中の過剰歯がわずかに顔を出しています（↑）。もう一本の逆生理伏過剰歯はここにありますが（↓）。



b: 4ヶ月後です。乳歯は自然に脱落し、順性の過剰歯が生えてきています（↑）。永久歯の前歯（↓）との位置関係をみながら過剰歯を抜く時期を検討します。

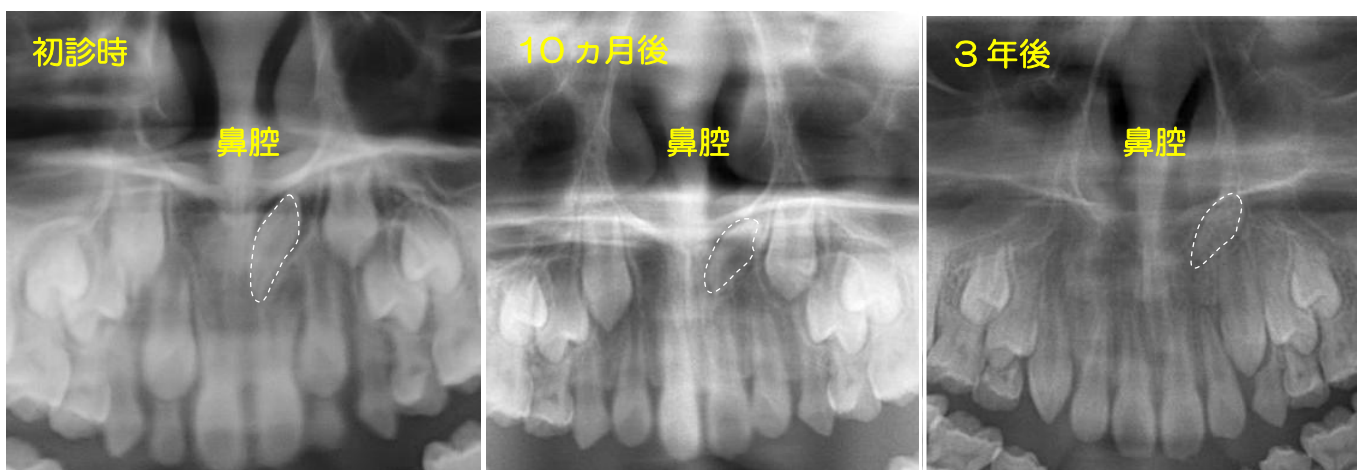


図7 逆生過剰歯の変化

増齢に伴い、逆生の埋伏過剰歯（点線部分）が鼻側に移動しているのがわかります。

4. 検査方法

歯科用の単純レントゲン撮影（図8-b）と、歯科用CT撮影（図8-c）を行います。CTから、埋伏過剰歯の正確な位置が把握できます。永久歯との位置関係も確認し、抜歯時期を検討したり、過剰歯抜去時の参考にしたりします。歯科用CTが普及する前は単純レントゲン写真で検査をしていました。永久歯の根と重なって見えるため、抜歯時に永久歯の根を傷めないように永久歯の根の成長を待ってから抜いたほうがよいと一般的に言われていました。しかし、図7で説明したように逆性の埋伏歯では鼻側に移動し、抜歯が難しくなるケースがあります。歯科用CTで確認すると早期の方が抜きやすい（図9）こともありますので、過剰歯が見つかったら早めに検査をすることをお勧めします。

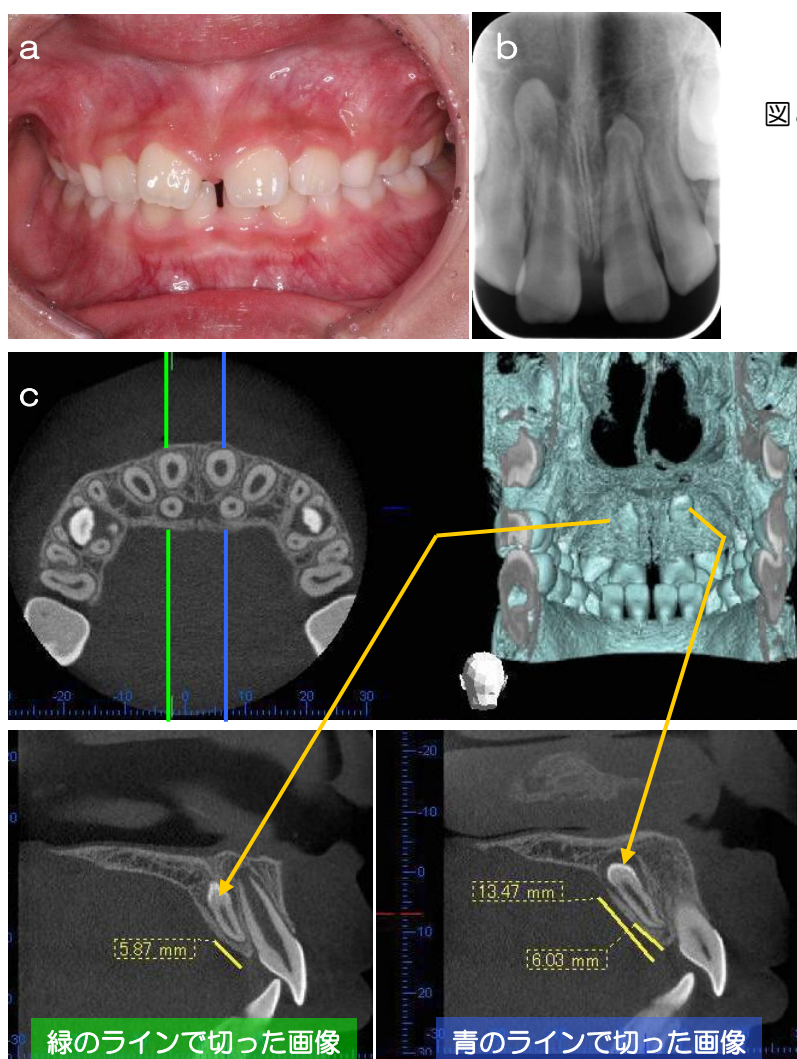


図8 過剰歯の検査方法

a：8歳4ヶ月の男児。前歯の隙間を気にして歯科医院を受診しました。

b：歯科用の単純レントゲン撮影で過剰歯が2本見つかりました。単純撮影では上の前歯2本との位置関係がはっきりしません。

c：歯科用CT撮影で過剰歯の正確な位置を確認し、抜去時の参考にします。

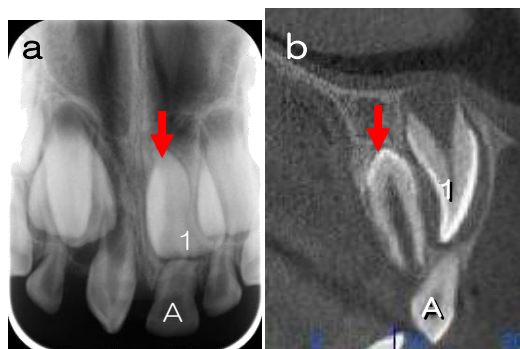


図9 単純撮影とCT撮影の見え方の違い

a: 5歳2ヶ月の女児。まだ永久歯はでていません。歯科用の単純エックス線写真で乳歯(A)の下に永久歯(1)が控えており、その永久歯に重なって過剰歯(↓)が確認できます。

b: 歯科用CT撮影で永久歯の裏側に逆生の過剰歯(↓)が確認できました。過剰歯の位置は浅く、抜きやすい位置にあることがわかりました。

5. 手術方法

歯肉を切開し、骨を削ってから埋伏過剰歯を抜去します(図10-a, b)。過剰歯を除去した後は歯肉を元に戻して縫合します。埋伏過剰歯の位置、子どもの協力度や年齢によって、麻酔方法は異なります。外来で、部分麻酔によって抜歯する方法と、全身麻酔で行う方法とが選択できます。

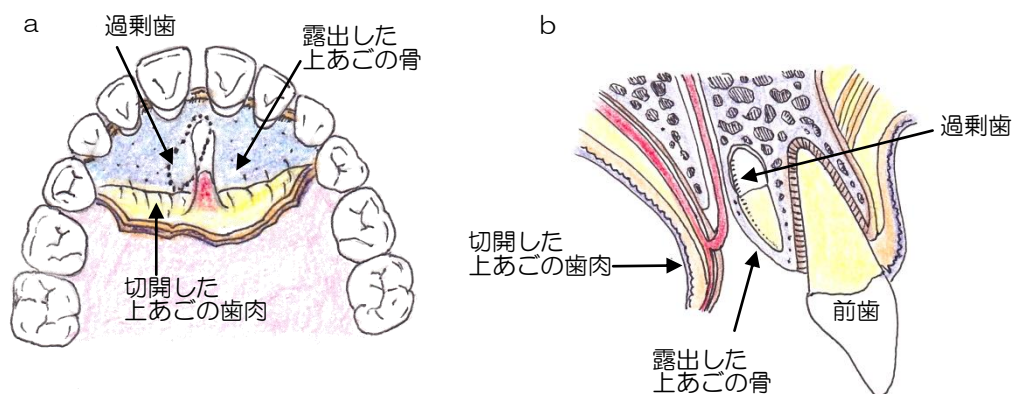


図10 過剰歯の手術方法

a: 上あご側に過剰歯が埋まっていることが多いので、上あご側の歯ぐきを大きく切開し、骨を露出させ、過剰歯を抜きます。過剰歯(点線部分)が取り出せるように、骨を削ります。

b: 横からの模式図です。骨を覆っている歯肉をめくって骨を露出させます。

Q：埋伏過剰歯はそのまま置いておいてはいけませんか？

A：過剰歯を放置した場合によく起こる異常は歯並びへの影響です。前歯の間が空いてしまったり（図 11）、歯並びが悪くなってしまったりします。逆生の埋伏過剰歯の場合、年齢が高くなると鼻側に移動（図 12）し、抜歯が大変になることがあります。また、近くにある永久歯の根が吸収したり、埋伏過剰歯が膿んで骨が溶けてしまったりする（図 13）こともあります。過剰歯があることがわかったら、早めにご相談ください。

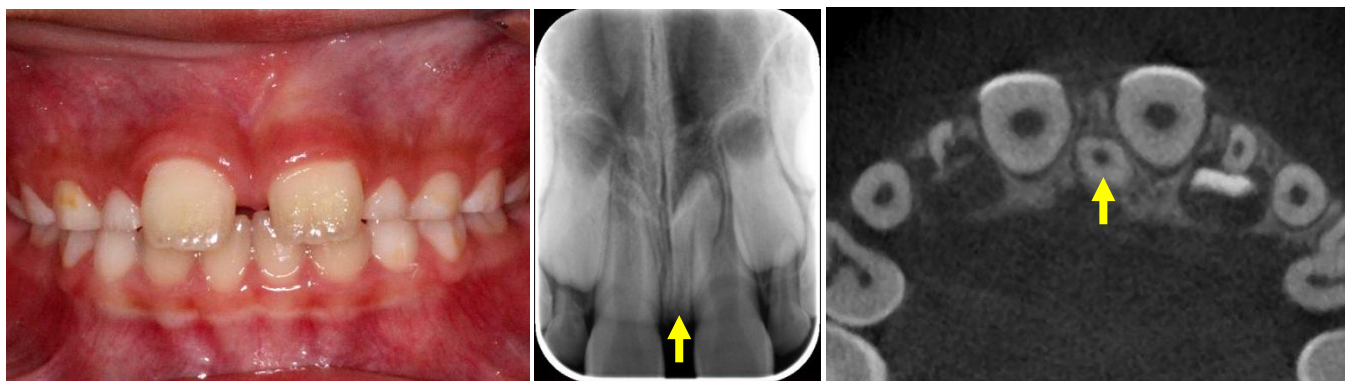


図 11 過剰歯が影響で起きた前歯の隙間（正中離開）

埋伏過剰歯が原因で前歯の間が空いてしまうことがよくあります。過剰歯が前歯の根の間にある（↑）ため、過剰歯を抜かないと歯並びは治りません。

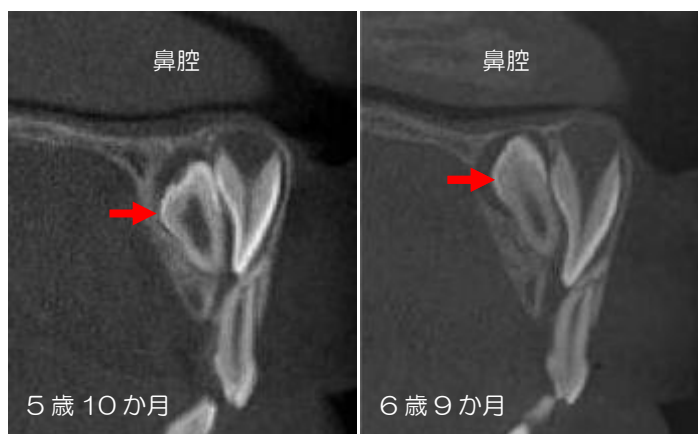


図 12 過剰歯の移動

a：5歳の時と比較して6歳時では過剰歯（→）が鼻の方向へ進み、以前より深く埋まっていることがわかります。

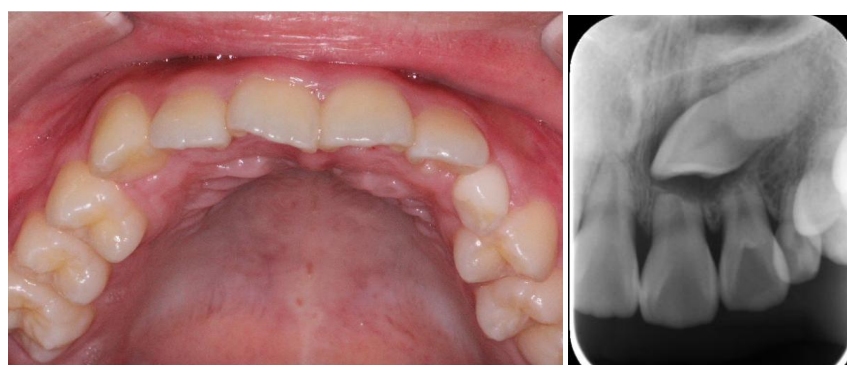


図 13 永久歯の根を溶かしてしまった症例

外からの見た目ではわかりませんが右のレントゲン写真で埋まっている犬歯が原因で前歯の根が溶けてしまったケースです。症状がないため、発見が遅れることがあります。